

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
1	くらでの明日を紡ぐ会	福岡県鞍手町	篠田 通弘	ネイチャーフォトグラファー	鞍手の魅力の発信—ヒメボタルを守る	令和2年10月18日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>1. 金生山ヒメボタルの観察を続けて13年の活動内容の詳細を語った。</p> <p>1.講師は、教師として徳山ダム予定地で9年間勤務、自然と歴史と文化を残すことに全力を注いだ。映画「ふるさと」の水没する学校の教師のモデルもなった。</p> <p>2.ヒメボタルの天然記念物指定地は全国で4ヶ所あり、岐阜県大垣市金生山は2番目の指定である。</p> <p>3.金生山は全山石灰岩からなり、石灰岩の採掘が進み今は明星輪寺の私有地が残るのみで、開発から守るため多重の指定の網をかけている。</p> <p>①頂上付近の岩巣公園はカルスト台地眺望も良く、大垣市の名勝指定。</p> <p>②ヒメボタルの餌となる14科38種の陸員の生息地で、「金生山陸員とその生息地」は岐阜県の天然記念物保護区域指定。</p> <p>③金生山のヒメボタルを、大垣市の天然記念物に指定。</p> <p>4.ホタルはなぜ光るのか、プロボーズ、警告、敵を驚かせるためであり、幼虫は外敵から身を守るため特異なおいを出し、外敵には「光るホタルは臭くてまずい」と学習させ身を守っている。</p> <p>5.ホタルブームと金生山ヒメボタルに思う。わずかの数日「命の輝き」を私たちは撮らせていただいている。来年も再来年も子や孫の世代まで、その輝きに出会えるよう願っている。</p>			<p>新型コロナウイルスの影響で宣伝を抑えたいせいもあり、観客が22名で残念でした。しかし、みな熱心に聞き入り内容的には成功だったと思う。</p> <p>金生山ヒメボタル鑑賞会には2日間で1,500人の参加がある。写真撮影には事前の申し込み、プレクチャーと写真教室受講が必要。金生山ヒメボタルは夜中の0時頃から光り始めるため、当日は夜10時からアルバのコンサートと陸員の勉強会を催している。大変だが、寺の住職と二人で運営している。金生山は寺の私有地であり、夜間は立入禁止、2回の鑑賞会当日だけ見学を許可している。写真教室には定員の2〜3倍の申し込みがあり抽選となるそう。鞍手のヒメボタル鑑賞会も、今年はコロナ禍で開催しなかったが、カメラマンを中心に多くの人が集まっていた。</p> <p>13年の成果は、懐中電灯の禁止、スマホの携帯止、たばこの喫煙禁止の3禁が徹底された。鞍手も初期段階よりマナーが良くなってきたがまだまだ、岐阜に学ぶことが多そう。天然記念物指定への道筋も学びたいと思う。</p> <p>保護活動は何もしていない、何もしないことが保護だ。天敵は何かの質問に、天敵は人間だとの言葉が印象的だった。</p>			
2	ポアラス	宮城県気仙沼市	廣原 鉄太郎	プロデューサー・プランナー	気仙沼におけるポアラスの新規事業「漬物販売」に関する販売促進およびマーケティング研修	令和2年9月6日(日)〜9日(水)
	事業内容			事業成果		
<p>講師には4日間で、①現況の把握と問題点の洗い出し、②問題点の解決および今後の展望、③新規事業「漬物販売」の展開方法とその他の事業展望、④現地視察と修正点の4点をプログラム通りに遂行してもらった。また、本件採択時には決定していなかった「気仙沼大島ウェルカム・ターミナルの産地直売所「ウジエスパー」」での販売開始に伴い、現地視察の追加と今後の販売拡大に対する具体的な展開についても追加でアドバイスをもらった。新規事業に関しては、コロナ禍による影響と今後の事業展開において、当初の計画に修正を加えて実施するよう勧められた。</p>			<p>今回の講演では、専門知識のないスタッフに対して、わかりやすく伝えてもらい、ポアラスの抱えている問題点を浮き彫りにし、今後の改善点をスタッフに理解してもらうことができた。そのほか、現在のスタッフの人員配置では明らかに回らなくなるので、適切な人員配置と補充人員の必要性、またそれぞれの役割分担がはっきりしたので、スタッフの配置換えと役割の明確化に着手した。また、コロナ禍の影響で一旦ペンディングとした新規事業「漬物販売」については、当初の計画では現加工場を活用する予定だったが、ウジエスパーへの販売拡大とあわせて、別の場所に新規加工場をつくることを目標・計画し、改めて実施することを検討し始めた。</p>			
3	道雪会	福岡県新宮町	赤神 諒	上智大学法科大学院教授	道雪会 第4回文化講演会	令和2年9月20日(日)
	講演内容			事業成果		
<p>演題「町おこしにおける立花山城の可能性と展望」〜立花鑑載の乱と戸次道雪〜古きより海外貿易の拠点の博多を押さえ、軍事的にも重要な拠点立花山城ここをめぐる争奪戦の凄さを、そして立花鑑載の乱を鎮め、1571年戸次道雪がこの城督として入場してからの奮戦ぶり、さらに米多比鑑久、藤野増時の活躍等厚く語っていただきました。コロナ禍のなか、感染防止策を徹底的に行い、その後も問題なかった。</p>			<p>これまで3年間の延べ9回の講演会の成果だと思いますが、地元住民に地元の歴史を知らず・本を見てみようという雰囲気が出てきた。この後まず新宮町立立花小学校の修学旅行で柳川川下り・立花山の勇将宗茂の業績・柳川文化を学ぶ子ども、の御花での学習が全テレビ局などに取り上げられ、新宮町の全小学校の子どもたちが10月に柳川に研修に行くことになった。</p>			
4	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県花巻市	池田 陽子	特定非営利活動法人 JAあづみくらしの助け合いネットワーク「あんしん」理事長	「誰もが安心して暮らせる地域、まずは近所の近助から」	令和2年7月16日(木)
	事業内容			事業成果		
<p>《講演内容》 「あんしん」が掲げるビジョン「住み慣れたところで、住み慣れた家で、あんしんして生き活きと暮らし続けることのできる里づくり」に向けて、下記の取り組みについて講演いただいた。 ①介護保険ではカバーできない生活支援「有償在宅サービス」 ②誰もが利用できる居場所「あんしん広場」の運営 ③福祉有償運送による「移送サービス」 ④「配食サービス」 ⑤御用聞き車「あんしん号」の運行 《アドバイス内容》 当協議会が運営している「福祉農園」において、講師がおこなっている「大学との連携のあり方」や「ジャム等の加工品開発」についてアドバイスをいただいた。</p>			<p>講師の豊富な実体験に基づいた的確なアドバイスは、参加した地域住民にとって貴重な経験となった。特に講演内容の①と②については、当地域においても具体的に検討できる内容であった。 また、規模は違っても同じ農村地域で活動している者同士として、これからは連携をとっていくことを確認した。 以上のことから、当初目標にしていた下記①〜③の成果を達成したものと考える。 ①地域住民の「近所の近助」意識の向上 ②生活支援・外出支援の体制構築 ③福祉農園を活用した高齢利用者の「活用の場」づくり</p>			
5	ふるさと高原山を愛する集い実行委員会	栃木県塩谷町	①谷本 丈夫 ②上原 巖 ③柴野 達彦	①宇都宮大学名誉教授 ②東京農業大学教授 ③宇都宮大学大学院生	イヌブナ自然林現地講演会	令和2年9月27日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>・ふるさと高原山を愛する集い実行委員会では「高原山」の素晴らしい自然を次世代に継承するべく、国の天然記念物であるイヌブナ自然林」での現地講演会を実施した。 ・宇都宮大学大学院生の柴野達彦さんにイヌブナ自然林内に生育している樹木、特にブナは太平洋側の特性を有しており、イヌブナは株更新を行っていることなどの説明をいただいた。 ・東京農業大学の原上原教授には、日本人は森林の中での散歩をしないが、ドイツでは森林を歩くことがうつ病などの処方箋としての効果も認められていること、ササやモミ、ヒノキなど様々な効果が確認されているなど、森林の癒しの機能について説明をいただいた。 ・宇都宮大学谷本丈夫名誉教授からは、地域ごとの環境に適応した森林育成、すなわち市町村レベルで森林を育てていくこと、その場所での環境特性を理解して多目的な森林管理を行うことが肝要であることを強調された。</p>			<p>・参加者から、「初めて参加しまして、今後のイベント企画される場合にはぜひ参加したい」という素晴らしいコメントをいただいた。 ・また、「これまで谷本先生の講演を多数聞いてきたが、今日の話が一番良かった」というコメントをいただいた。 ・谷本先生から戦前から戦後にかけての木材利用の変遷を踏まえ、画一化されてしまった森林について、これからはその場所の環境の特性を踏まえたうえで、市町村レベルで多様な森林管理を構築していくことの必要性を指摘され、人工林の伐期を迎えた今日、まさしく我々も取組に参画していく思いを新たにされた。 ・全国山の目協議会の関係者にもお越しいただき、今後連携を強化していくことで意見が一致した。 ・現地講演会を踏まえ、今後の当実行委員会の事業展開に活用していきたい。</p>			
6	特定非営利活動法人ななわ文化芸術推進協議会	大阪府大阪市	①西野 春雄 ②原 大 ③山中 雅志 ④橋本 久	①法政大学名誉教授 ②能楽高安流ワキ方 ③能楽観世流シテ方 ④大阪経済法科大学名誉教授	高安地域ゆかりの文化歴史を探索	令和2年11月4日(水)
	事業内容			事業成果		
<p>基調講演:「令和に蘇る幻の能(綱)」—前場に礎の出る台本を求めて— 講師:西野春雄 高安地域ゆかりの曲である能楽曲「綱」について、1 幻の能(綱)とその系譜、2 構想と展開、3 趣向とねらいとして、復活創作の内容を具体的に説明して、地域づくりのソースとして提示した。 パネルディスカッション:「高安地域ゆかりの文化歴史を探索」 パネリスト:西野春雄、橋本久、原大、原隆、福田祐美子 コーディネーター:山中雅志 能作品の物語や登場人物などの設定において、都(京都)に対し、地方(高安)が果たす役割について、能研究者、能楽師、地域歴史研究者によるパネルディスカッションを行った。</p>			<p>エリアに由来する伝統文化や歴史を基に新たな魅力を作り上げる試みとして、国指定史跡高安千塚古墳群の一つ、通称「手塚」にまつわる鬼の伝説をもとにした能(綱)を創作し、地元発祥の流派「高安流」の能楽師が演じるという具体案を示しながら、地域づくりイベントのポイントとして、①地元文化の歴史に根ざしたものであること、②専門家の適切な協力が得て、実現可能なものであること、③地元住民の理解協力により成り立つものであること、④地域外に向け広く発信していくものであること、などをあげて参加者と共有した。</p>			

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	NPO法人棚田LOVER's	兵庫県市川町	①三浦 伸章 ②奥田 浩之	①MOA自然農法文化事業団静岡西部中部地域会員連絡会議事務局長 ②MOA自然農法文化事業団関西支所長	土と植物、命のつながりを実践を通じて学ぶ自然栽培、地域づくり事業	令和2年9月13日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>今回は、先進事例を学び、実践につなげて担い手育成を行うために三浦伸章氏と奥田浩之氏をお呼びし、「土と植物、命のつながりを実践を通じて学ぶ自然栽培、地域づくり事業」を行った。</p> <p>三浦伸章氏は土と植物、命のつながりを自然栽培を通じて伝え、35年以上にわたり自然農法の研究と実践経験から海外でも指導されており、その経験談を話していただいた。</p> <p>三浦伸章氏から参加者15人が、地域の活性化の対策や担い手育成、移住者を増やす事例を学び、今後に生かすことができた。</p> <p>講演会だけでなく、実践を通じて学ぶことで、具体的な自然栽培の方法を学ぶことができ、その栽培方法で栽培した農産物を販売することも付加価値をつけて地域活性化の成果につなげていくことができた。</p> <p>さらに、情報交換会・交流も行い、ネットワークづくりができることにより、地域づくりの人材を育成する効果も得られた。</p>						
8	一般社団法人おいしい防災塾	兵庫県神戸市	①諏訪 清二 ②森永 速男 ③平生 ころこ ④田中 達也 ⑤太田 敏一 ⑥室崎 友輔	①防災教育学会会長 ②兵庫県立大学大学院教授 ③滋賀県立八日市養護学校中学位教諭 ④国立神戸大学付属小学校教諭 ⑤防災リテラシー研究所代表 ⑥減災環境デザイン室代表	防災学習実践シンポジウム～授業で出来ること～	令和2年10月17日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>公立、私立の小中、高大の先生方及び、講師として呼ばれて、実践されている活動を参加者と共有。もつと踏み込んだ防災の教育をするためには、何が必要か、その中で出たのが「ミニマムエッセンス」をすべての人が持つ。人として人を助け、信念を持ち、熱情を持って取り組む生徒を一人でも多く育て、その中の一握りでも、防災の道を進んでくれたら良いという意識を教師(教える立場)の人が持てほしい。</p> <p>教える側が防災はすべての教科に関連していると、強い信念を持ち何事も防災とはという固定観念を外して取り組む姿勢が大切だという発言が印象的であった。</p> <p>参加者は、教育関係者および行政の職員、防災を学んでいる学生、防災士の方、地域で何らかの活動をされている方が多く、貴重な有識者の講師陣のお話に、講義時間が足りなくなるほど質問が相次いだ。普段なかなか共有できない教育機関における防災のノウハウを共有することで、参加者だけでなく講師自身も気づきや学びがあり、改めて防災について考えるきっかけを作ることができた。シンポジウム後には講師同士の繋がりができ、「次は講師としてぜひ来てほしい」というやり取りも見られ、この講座を通じて今後また学ぶ機会が提供されることが期待できる。</p>						
9	ハッピーママくらぶ	福岡県久留米市	山下 裕史朗	久留米大学医学部小児科講座主任教授	発達障害をもつ子のライフステージを通じての支援	令和2年11月15日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>発達に課題がある人が、生まれてから成長するさまざまな段階での支援に関するお話。</p> <p>発達に課題があるお子さんには交友関係や学習に関する悩み、進路、就労に関する悩みなど年齢に合わせて各年齢で悩みは新しくなります。</p> <p>乳児期や入園前のお子さんの発達障害に気付くポイントやそのようなお子さんを持つ母親の療育レジデンス(育児に関する悩みを回復させる力)を強くするには特性理解、肯定的受容、社会的支援が必要で、そのためには周囲の方の理解と孤かな子育てにならないようにすることが必要。</p> <p>また、学校での学習支援に関するアドバイスや受験の時の配慮に関してのアドバイス、きちんと働くことができるようになるためのスキル(早起早起きやコミュニケーション能力を身につけるなど)の説明をしていただいた。</p> <p>積極的に質問もされていました。</p> <p>①当事者への告知はどのタイミングでするのが理想的なのか ②性への興味に関する対応の仕方 ③当事者本人が自分の取扱説明書を作りたいがどのようにして作ったらよいのかとそれに関する伴奏者がほしい ④学習や教育、進学に関する不安 などがあげられていました。</p> <p>質問に対する先生のお答えを質問者もはもとより他の受講者も同様な悩みを持たれている保護者や支援者は各自持ち帰りご家庭や事業所での対応で試してみられるとの感想を話されていました。</p> <p>今回の講座は新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために人数制限をして、zoomを利用してオンラインで開催しました。初めての試みとしてサテライト会場を2か所設けてオンラインができない方も受講できるように工夫しました。サテライト会場では、プロジェクターに投影して参加者が会場と一緒に見る形を取りました。</p> <p>今後、新型コロナウイルスがどのようにしていくのか先が見えない状況なので、それも考えながら開催を工夫し啓発事業を進めていきたいと思えます。</p>						
10	特定非営利活動法人奈良能	奈良県奈良市	①西野 春雄 ②今泉 隆裕 ③橋場 夕佳	①法政大学名誉教授 ②桐蔭横浜大学教授 ③東邦学園教諭	能の基礎を作った大和猿楽とは	令和2年11月7日(土)
	講演内容			事業成果		
<p>講演内容: ○能楽は大和猿楽から発展した芸能で、奈良盆地を中心とした大和(奈良県)が発祥の地であるがゆえ、奈良県を舞台とした謡曲は現行曲以外にも数多く存在し、120曲にもものぼる。 ○能楽は仏教や神社神道と深い繋がりが有るが、特に奈良関連の謡曲は春日信仰と関わりが深い。 ○復曲能『高安』は1452年春日興福寺での演能記録が残るが、平成になって復曲が叫び、2017年八尾市にて初演、奈良では568年ぶりの上演である。 ○講演に続いて行われた芝能は在原業平を主人公とする、伊勢物語から材を取った演目が並ぶ。その伊勢物語について。 ○復曲能『高安』の構成と小書について。</p> <p>3人の専門家は奈良県と能楽との関わりについて、復曲能『高安』について、体系的な内容の講演を行った。講演は平易な内容から始まり、より専門的な内容に至った。能楽研究において多数の著作・論文発表のある西野・今泉・橋場の3人の専門家が、能楽発祥の地である奈良県に結集されることは大変意味が大きい。講演に続いて行われたパネルディスカッションではパネリスト各氏が活発な議論を交わし、聴衆はそれを見聞きすることで、パネリストと聴衆双方が大いに刺激を受け、知見を深めることができた。奈良県民にはなじみのある地名も多く、より郷土愛が深まったことと思ふ。</p>						
11	青森県レクリエーション協会	青森県青森市	津幡 佳代子	三重県レクリエーション協会事務局長、高田短期大学非常勤講師	レクリエーション指導者フォローアップ研修会	令和2年10月4日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>青森県内のレクリエーション指導者の資質向上を目的として、レクリエーションの専門家より「ゲームの理論と実践」の指導を受けた。</p> <p>ゲーム理論で基本的な知識を学習した後、さまざまなゲームを体験した。次々に展開されるゲーム、そして折に触れて、指導上のポイントについての説明は、目を見張るものがあった。</p> <p>参加した受講生は、終始、笑顔で楽しみながたうたうの姿を学ぶことができた研修内容であった。</p> <p>その効果は、受講生の感想文からも伺い知ることができる。</p> <p>今後は、研修で学んだことを、学校生活の中で、部活動の中で、PTA活動の中で、野外活動の中で、子ども会・ボイスカウト・ガールスカウトの中で、地域の町内会等のお花見会「運動会」「ピクニック」「クリスマス会」「お楽しみ会」等、地域住民の交流の中にも活用することによって、お互いの親睦を図り、青森県民の活性化にもつなげていきたい。</p> <p>また、学習したことを、いろいろな場で普及促進し、日常生活をさらに元気に、楽しく、「健康寿命」を伸ばし「ピンピンコロリ」の人生を送ることにもつながっていくよう努めていきたい。</p> <p>そして、この研修を受講した仲間の皆さん方が、青森県の掲げる「短命県返上」に向けてますます頑張っていただけることを願っている。</p>						
12	特定非営利活動法人Synapse40	宮城県大崎市	大川 真	中央大学教授	『共生社会の実現に向けたフォーラム2020』自分の幸せとみんなの幸せを考え、学校教育と地域で市民性を同育むか	令和2年12月12日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>今日、大学生を取り巻く環境は決して良いとは言えない。仕送りは年々低下し、多くの若者がアルバイトをしながら生活と勉強を両立させる生活に疲れきっている。OECD加盟国と比較しても、公的な支援制度が充実しておらず、日本の学生たちの学習環境は非常に厳しい。</p> <p>こうした中、世の中はAI時代突入し、様々な産業の構造が変わろうとしている。AI時代を生きる若者たちには、論理力や創造力等、いわゆる「人間力」が必要。</p> <p>大人や地域による社会的支援体制のもと、経済的困難に奪われることのない、一貫した初等教育から高等教育で「人間力」を養うことが、未来の人づくり・地域づくりにつながる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、急速、web会議システムを活用した開催方式となった(講師、会場、オンライン参加者によるweb会議によりフォーラムを開催)が、小・中・高校生・大学生からシニア層まで、幅広い世代や職業の方が参加し、子育て世代の大人や、子どもたちから講師に、子どもたちに学ばせるべき・自ら学ぶべきこと等について、様々な質問がなされた。</p> <p>講演を通じて、多くの参加者が社会全体による教育の必要性を認識するとともに、その一例として、子ども職業子屋プロジェクトの取り組みを知ったことで、今後における積極的な青少年の教育活動を通じた地域づくりに、自ら参画するきっかけを作ることができた。</p>						

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	木曾子育てまちづくりの会	長野県木曾福島町	①田中 千央 ②竹内 延彦	①王滝村立王滝小学校講師 ②池田町教育長	子どもがまんなかプロジェクト～地域から教育を考えよう～ 講演会&映画「Most Likely To Succeed」上映会	①令和2年7月19日(日) ②令和2年10月10日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>①当日は、映画の上映を行うとともに、王滝村立王滝小学校の田中先生を講師に迎え、学校教育の現状や、授業で実践している「自由進度学習」や「哲学対話」について、子どもの様子を交えて講演いただいた。日本にある、オルタナティブ教育の学校の紹介を通して、どんな実践がされているのかなど具体的にお話しいただいた。</p> <p>②映画上映後に、池田町教育委員会の竹内教育長に、映画の感想や池田町の取り組みなどの講演をいただいた。映画に出てくるブライアンという男の子が、最後に突っ走って失敗をするが、その生徒に対して教師が「君のいいところは、そのビジョナリーなところだ。そこを失ってしまっていない」と、励ました言葉が、その子らしさを大切にすることではないというお話があった。一人ひとり全員が、幸せな人生を歩んでほしい、そのための学びの教育の仕組みや概念をよい意味で変えていくチャンスとなると、具体的な実践のお話をしていた。その後、木曾郡内の教育長や校長先生などにご登壇いただき、映画の感想やこれからの教育で大切になってくることなどの意見交換を行った。地域の中で学校や求める教育のあり方を考えていく時だといったお話や、学校での具体的な取り組みについて、家庭と学校の連携についてなど活発な意見が出て、木曾のこれからを考える貴重な機会となった。</p>			<p>①参加者からは、「映画内で失敗した生徒にかけた教師の言葉「君が君でなくちゃ意味がない」という言葉がすごく響いた。」や「一人ひとり学び方が違う中で画一的な考え方はできない。」などの感想がありました。その後、参加者全員で「学校で“やめた方がいいこと”」「はじめた方がいいこと」について考えるワークショップを実施。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加者は6名だったが、活発な意見交換が行われ、これからの学校教育のあり方や地域・家庭の役割などについて、学びを深める機会となった。</p> <p>②参加者からは、「大人が型から出る勇気が必要だし、自己判断や創造性を伸ばす教育の大切さを学んだ。」「具体的な話をたくさん聞いてよかった。今度の課題やこれからは生かせるヒントがたくさんあったと思う。」「学校現場にいるが、研修会などもっと地域に開いて教育を語り合える場をもっと作ってほしい」「貴重な学びの機会となった。これからは、このようなイベントを企画してほしい。」など前向きなご意見をたくさん頂戴した。子どもにとって、地域全体にとってよりよい教育のあり方を考える大きな一歩となった。</p>			
14	山里・暮らしの学校	和歌山県かつらぎ町	①西田 利彦 ②大谷 芽衣子 ③福熊 高子	①花ぼうし代表、造園設計・施工・管理 ②関西造園土木(株)、造園設計・施工・花壇管理 ③(株)ヘッズ、建設コンサルタント・まちづくり	「都市と農山村交流による地域活性～オープンスペース(緑地)の設置と活用に向けて～」	令和2年9月26日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>「都市と農山村交流」をテーマに地域づくりを進めている中で、現在は交流人口を増やす手立てを探っています。その手立てのひとつとして、地区住民から要望の出た「交流人口が利用できる休憩スペースづくり」を進めたいための研修会を開催しました。</p> <p>地区内および近隣地区において、オープンスペースを有するまたは設置予定の事業者や個人の管理する対象地を講師である造園の専門家2名に見てもらいながら、問題点や希望を伝え、その解決法や実現の仕方のお話をもらいました。</p> <p>また、今後のオープンスペースづくりを住民参加、大学との域学連携で設置を予定している2か所については、講師であるまちづくりコーディネーターから、住民や大学生の参加を促す手法や進め方などのアドバイスをもらいました。</p>			<p>参加者がそれぞれの想いや考えで自分流でオープンスペースを作ってきた、またはこれから作っていくという中で、専門家に現場を見てもらいながら話を聞いたことは大変有意義でした。専門家からの意見、アドバイス、感想などにより、参加者のオープンスペースづくりへの努力や費用の軽減が図れ、またオープンスペースづくりへの想いが具体的な一歩につながった研修会でした。</p> <p>例えば、参加者からは、自信になり取組への想いが一段と増した、半ば設置をあきらめていたのが意外なアイデアを得て設置に前向きになった、考えていた構想が予想以上に大変な作業だと認識し直した、自分の構想が現地には不向きと知り落胆したものの得られた代替案が素敵なお話で楽しみのようになった、気にも留めていなかった既存の素材の価値に気づき活用の幅が広がったなどの意見がありました。今回の研修内容を踏まえ、今後は地域全体でのコーディネートも検討していきます。</p>			
15	学びあい「5色の絵の具」	石川県羽咋市	北村 隆幸	NPO法人せき・まちづくりNPO.ぶらめらん代表	一住民主体の地域づくりを進めるためにー「中学生以上全住民を対象にしたアンケート調査」の手法と活かし方を学ぶ	①令和2年11月22日(日) ②令和3年1月31日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>持続可能な地域づくりが「町会」「行政」の緊急課題であり、必要なのは地域コミュニティの強化である。そのため、全住民の声を聞くことからスタートするとの考えの基「中学生以上全員アンケート調査(以下調査事業)」を実施することにした。</p> <p>しかし、この調査事業は当団体では初めての取り組みであるため、経験豊富な講師から下記内容のアドバイスを受けながら進めた。</p> <p>(1)調査の進行に合わせて、その都度アドバイスを受ける。</p> <p>調査の行程、調査票の内容、データ入力・集計・分析の方法、報告書の作成</p> <p>(2)講師を交えて①・②の会議兼学習会を、調査事業の関係団体(町会・行政・社会福祉協議会)を対象に実施した。内容は、調査データの分析から可視化されたことや全戸配布する報告書の内容の協議並びに調査の意義や調査結果の活かし方などについて学んだ。</p> <p>なお、調査を実施した町会は、人口325人、高齢化率49.7%の限界集落に近い町である。また、この事業は、羽咋市のモデル事業として、町会・行政・当団体との協働により実施した。</p>			<p>この調査事業は、3組織「町会」「行政」「中間団体(当団体)」が当事者意識をもって協働で進めた。そのため、下記のとおり3組織共に成果があった。</p> <p>(1)当団体は、調査の実施手順から報告書作成までの工程及び地域の問題課題を可視化させる視点から調査データを分析することを学んだ。そして、調査結果を活かすのは住民であるため、図表と文章でとにかく住民にわかりやすく伝える報告書の作成方法を学ぶことができた。</p> <p>(2)この調査データの分析から報告書作成過程において、①・②の会議兼学習会を開催している。その結果から、町会は、この調査結果を活かしたまちづくりを進めることを宣言し、行政は、この調査事業を新規事業として予算措置をし、この調査結果を活かした活動に対して協力することを約束した。</p>			
16	高知県青年協議会	高知県高知市	①鍋島 悠弥 ②磯野 都一 ③西込 浩一 ④吉村 忠保 ⑤山崎 みなと	①農耕ゲストハウスさかりばオーナー ②日本都市青年会議所副会長 ③株式会社しごみ代表 ④よしむら農園代表 ⑤民泊施設あそびばオーナー	高知家畜青年ゼノモノ・ヨソモノ交流会ー青年団×地域おこし協力隊ー	令和3年2月11日(木・祝)
	事業内容			事業成果		
<p>今回講師としてお越しいただいた(一社)えひめ暮らしネットワーク鍋島悠弥さんには「地域づくりの根っこは、暮らしの中にある」としてご講演いただきました。</p> <p>地域おこし協力隊として入った大三島で待っていたこととして体験したことをリアルな移住者の声として共有、またどんな地域の中でも「地域らしさ×自分らしさ」として地域の意志に自分の想いや熱意を織り込んでいくことでより良い地域おこしにつながるといったお話しをしていただきました。</p> <p>また、分科会ではテーマに沿って意見を出し合い、助言者のみなさんには様々な立場・分野の中から若者世代の悩みに寄り添ったアドバイスをいただき、また全体で共有することで会場全体で一緒に深めることができました。</p>			<p>地域・青年団活動が各地衰退している中、地域おこし協力隊の様にヨソから来られる若者との交流を行うことで今後それぞれの活動が活発になるきっかけにすることができました。</p> <p>地域青年(青年団・移住者)の他にも、県議さんや市町村議員のみならず、行政職員さんや大学生と幅広く多くの方々にお越しいただきそれぞれの立場から意見やアイデアを出し合うことで、次年度以降につながるため、よこのつながり、具体的な連携につながる土台ができました。今後は「ゼノモノ/ヨソモノ相談室」として日ごろから地域で動く若者をサポートする動きをさらに加速していきたいと考えます。</p>			

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
17	芦屋Tioクラブ	兵庫県芦屋市	①李 亜輝 ②鍋谷 勲	①二胡演奏家 ②写真家	音楽と写真ボランティア養成講座 音楽と写真のコラボ「いのちの歌～花と小さな虫たち～」コンサート	①令和2年9月3日(木) ②令和2年9月17日(木) ③令和2年9月24日(木) ④令和2年9月25日(金) ⑤令和2年10月8日(木) ⑥令和2年10月12日(月) ⑦令和2年10月22日(木) ⑧令和2年11月5日(木) ⑨令和2年11月19日(木) ⑩令和2年11月26日(木) ⑪令和2年12月3日(木) ⑫令和2年12月5日(土) ⑬令和2年12月10日(木) ⑭令和3年1月31日(日)
	事業内容				事業成果	
1.音楽ボランティア養成講座の開催。ワークショップを連続開催することで、二胡演奏の技術と表現、合奏のスキルアップを図った。地域で活動する他団体との協働で活動の幅を広げ継続と活性化を図る重要性を指導いただいた。 2.写真ボランティア養成講座の開催。作品の鑑賞、制作意図・構図などを学んだ。撮影会はカメラの基礎・扱い方や撮影技術・撮影ポイント等について、実際に現地を歩きながら指導していただいた。様々なテーマで写真撮影を行い、テーマに合わせた写真展を開催した。					1.音楽ボランティア養成講座で人材育成。演奏技術のスキル向上を図り、ボランティア活動実践の場として音楽イベントを実施した。プロの演奏家とのコラボ演奏会では、コロナ禍で自粛を余儀なくされている地域の人たちと音楽交流を楽しんでもらった。停滞している芸術文化に活力をもたらす活動となった。 2.異文化交流コンサートでは、民族楽器やその歴史、伝統文化や暮らし等の話を織り交ぜ、音楽を通して多文化共生を考えるきっかけとなった。 3.写真講座では地域の風景や風物詩、伝統行事等のアーカイブ記録と撮影を行った。地域の自然や風景の写真展で、町の魅力再発見やふさと意識を醸成できた。写真を趣味だけではなく、地域文化を未来に伝達する役割を果たしている。 4.コロナ禍で音楽交流会がすべて中止となり活動意欲が削がれてしまったが、老人福祉施設や病院等で写真展を開催した。長い自粛の暮らして心が殺伐としているときにほっこりとした気持ちを味わったと喜んでいただいた。ボランティア活動の意義を改めて確認し、活動を継続する力をもらった。 5.初めての試みとして相楽園でのコンサート映像のDVDを制作した。出前演奏会で訪問できなかった施設等に貸し出しを予定している。 6.来年度も継続して相楽園でのコンサート等が決定。施設等には、コロナ収束後に順次出前演奏会で訪問を予定。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
18	みやざき地域おこし協力隊活性化委員会	宮崎県宮崎市	①古川 寛 ②阿部 昭彦 ③高萩 誠	①九州おこし会会長、合同会社松下生活研究所所属 ②地域おこし舎代表 ③Tシャツ&ウェアプリント工房「tee bank」代表	第5回地域おこし協力隊みやざきサミット	令和2年8月19日(水)～20日(木)
	事業内容				事業成果	
【ワークショップ①】 『自分の棚卸をしてみよう』古川寛氏 自分の状況を整理する。地域おこし協力隊として考える前には自分について整理してみよう。ミッション、得意なこと、好きなこと、嫌いなもの、これまでの経験、やってみたいことなどを記入し、それをもとに自己紹介を行う。他の隊員の印象や気になること、質問を共有して、返答や感想を話す。 【ワークショップ②】 『バックキャストリングを学ぼう』阿部昭彦氏 夢をかかえる人とそうでない人の違い。大谷翔平を例の考え方からバックキャストリングを説明。ドラフト1位をとるという目標を立てて、それに必要なキーワードを割り出し、さらに細かくポイントを割り出していき具体的に設定していった。しっかりゴールのイメージをたて逆算して必要なことを設定することでふれずに前に進んでいける。この考え方がバックキャストリングである。 ワークで自分や地域の現状を書き込み、今後の予測、理想のゴール、実現するために必要なことを書き込む。一人一人プレゼンを実施。コメントに対して質問やアドバイスをを行う。 【講義】 『地域おこし協力隊とは』古川寛氏 地域おこし協力隊の制度について、活動費について、交付措置の仕組み、地域づくりの話。 【ワークショップ③】 『ロードマップ作成を学ぼう』古川寛氏 着任から現在までの自分の動きを書き出し、地域の反応と感情を入れる。地域の未来像をバックキャストリングを活用して作る。地域の動きに対して自分がどのように動きかけていけばいいのか、働きかけることによってどう変化するかを考えていく。最後に活動のテーマを設定する。書き終えたら発表を実施。 【放課後】高萩誠氏 事業継承をしたことの経緯や大変だったことや、県やメディアが取り上げてくれたことで周りの環境を作ってくれた成功事例を話してもらった。					元地域おこし協力隊の3名が講師で、お話の内容も身近に感じることができた。オンラインで行ったことで、通常の研修よりも時間が長く感じたし疲れたと感じたとの感想があった。 ワークショップで文字や表にすることで、自分自身の課題が浮かび、自分のやるべきことがわかり、自分の未来図、地域の未来図が設定できた。 また、地域の過疎などの問題はどこも似たようなものがあること、情報交換や共有・相談をしたことで自分の立ち位置も意識できた。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
19	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	能作 淳平	建築家・東京理科大学非常勤講師	市民の「動物園」を盛り上げよう!!! ～若くて自由な発想で、社会と結ぶ～	令和2年10月3日(土)
	事業内容				事業成果	
講演内容は、建築家の能作淳平氏(ウササグンペイアーキテクト主宰)が自身の作品紹介を交えながら、作品を作っていくプロセスをアニメーションなどを用いて説明していただき、学生にもわかりやすいものでした。建築のデザインだけではなく、そのプロジェクトの動機や背景などを深く掘り下げていく過程の中から建築というハードだけではなく、ソフトに踏み込んだ関わりを持つことで、ポイントを浮き彫りにしていく手法を紹介していただきました。能作氏が37歳であり参加した学生たちも年齢が近いこともあり、学生も興味深く聞き入っていました。 今回のテーマである「動物園と社会を自由な発想で結ぶ」というものに沿った内容でした。					市民の「動物園」を盛り上げよう!!!～若くて自由な発想で、社会と結ぶ～をテーマとした、9校16チームの模型を持ち寄り審査委員長と参加者の前でプレゼンテーションを5分発表、3分質疑応答。普段の課題の中での考え方は違う形での建築設計への一面を感じることでできた時間であったと思います。能作先生からは、学生の意図をよく聞いていただきうでの的確なアドバイスをいただいた。学生たちも真剣に関心入っていました。最優秀賞は岡山理科大学専門学校、特別協賛いただいた池田動物園賞は岡山後楽館高等学校でした。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
20	特定非営利活動法人旭川NPOサポートセンター	北海道旭川市	ケンタロ・オノ	一般社団法人日本キリバス協会代表理事	だれ一人取り残されないために～僕の国キリバスからのメッセージ	令和2年11月13日(金)
	事業内容				事業成果	
キリバス共和国は南太平洋にある33の島々からなる人口11万人の小国です。海抜2mにも満たないこの国が地球温暖化による海面上昇により、日本の協力でできた道路がたびたび冠水することや、海水が地下水に浸透し人間や動植物にも大きな影響があること、2050年には対策がなされなければ、人口の半分が住む首都タラワの25%～80%の陸地が失われる可能性があり、国の存亡の危機である。地球温暖化の原因は①石油の使い過ぎ(車・ガンソリン・プラスチック・ペットボトル)②森を壊しすぎ③海を埋め立てすぎ④食べ物を無駄にしすぎたこと。もう一つの2050年問題は海の魚類の総重量よりも海洋プラスチックごみの総量のほうが多くなること。キリバスにも海岸にプラスチックごみが流れ着いている。川から海へと世界はつながっている。日本にできることはもつとあるはず。SDGsだれ一人取り残さない世界を目指して、あきらめずに、私たちが望む未来のために強い意志と行動があれば必ず自然は答えてくれる。					コロナ感染が旭川市内でも急速に拡大し、外出を避ける市民が多い中での開催でしたが、高校生から高齢者まで、また様々な職業の方々にも出席いただき、熱心に受講いただきました。環境問題に関心がある方が多く参加され、温暖化やSDGs、海洋プラスチックごみ問題を通して、日々の生活の行動変容を促し、市民一人一人、何が出来るかを考えていただく良いきっかけとなりました。「Think Global Act Local(地球規模で考えて、地域で活動しよう)」という講師の呼びかけに、地球規模で考える地球市民としての自覚から、地域に新たな活動が生まれる可能性を見出しました。アンケート結果からも多くの方に身近な問題としてとらえていただき、特に17歳の高校生からは「地球の『全て』の人が望む未来のために活動していきたい」との強いメッセージをいただきました。	

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
21	NPO法人アレルギーを考 える母の会	神奈川県横浜市	①大矢 幸弘 ②山田 佳之 ③井上 徳浩 ④横山 摩希	①国立成育医療研究センター アレルギーセンター長 ②群馬県立小児医療センター アレルギー感染免疫・呼吸器科 部長 ③国立病院機構南大阪医療セ ンター小児科 医長 ④保護者	アナフィラキシーと消化管アレルギー親子のための懇談会	令和3年2月13日(土)~14日 (日)
	事業内容			事業成果		
ZOOMのWEB会議システムを使ったオンラインで実施した。長年臨床研究の最前線で活躍してきた経験豊かな専門医から1日目は、思春期から成人まで持ち越した人のために、「成人のアレルギー治療で知りたいこと」とのテーマで、鑑別診断から薬物アレルギー、封を開けたお好み焼き粉内で増殖したダニ、アニサキス、コチニール色素、マダニ、猫、鳥等特殊なアレルギーについてや、ぜん息と肥満との関係など最新情報を、2日目は、小児のために「アナフィラキシー、これだけは知ってほしいこと」をテーマに、最新ガイドラインに基づき、症状、種類、検査、治療、緊急時対応等の基本を確認、両日とも懇談、個別相談に多くの時間を割いてくださった。			東京、神奈川県だけでなく、北海道、愛知、大阪、広島、岡山から患者家族、専門職、教員、行政、製薬メーカー87人が参加した。懇談、質疑に十分時間をとり、コロナ禍中の受診の仕方、コロナウイルスワクチンの注射についての考え方を確認したり、アナフィラキシーと思い込んでいた症状が実は過敏気管支炎に心配する必要はなく、二臓器以上の重篤な症状をアナフィラキシーという等、日頃の不安や疑問に答えてもらい、課題解決のために具体的な指導を仰ぐことができた。また寛解した青年から現在大変な症状のある子どもたちにエールを送るなど、同病同士で体験や工夫できることなどを情報交換、交流ができ、先の見通しが立った、温かい雰囲気だった、希望が持てた等、喜びの声が上がった。			
22	社会福祉法人芳香会	茨城県古河市	篠原 亮次	山梨大学大学院総合研究部附 属出生コホート研究センター 教授	高齢・認知症的障害者の支援のあり方を学ぶ	令和2年9月26日(土)
	事業内容			事業成果		
山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター・篠原亮次教授から「親亡き後の高齢知的障害者の意思決定支援」というテーマでご講演いただいた。 知的障害者における「意思決定支援」の定義について理解した後、「医療現場における意思決定支援ガイドライン」を使用し、意思決定支援の具体的な方策について学んだ。			受講者アンケートの結果、受講者の60%から「非常に満足」「満足」との回答が得られた。また、「身寄りのない方の意思決定の方法のひとつとして、チームで方針を決めていくというのはよくなりました」「身寄りがない人への具体的な対応方法について役に立ちました」といった記載が多数あり、受講者にとって学びの多いセミナーとなった。			
23	特定非営利活動法人東鳴 子ゆめ会議	宮城県大崎市	山下 太郎	株式会社ジャパンデザイン代表 取締役	コロナ禍を乗り越える！地域の宝を編集・発信	令和2年9月11日(金)
	事業内容			事業成果		
山下氏は大学卒業後大手不動産に入社、優秀な成績を残し退社。その後業界ではまだ珍しかった不動産販促システムを開発し、いわゆる「IT長者」になった。その後様々な失敗や成功を繰り返して現在は社会起業家としてジャパンデザイン社の代表を務めている。 ソーシャルビジネスの一般的概念として、1)社会性、2)事業性、3)革新性があるが、山下氏の持論からすると、官民一体とならなければソーシャルビジネスとはならないという。さらに官と組む場合は助成金をもらわない主義だといふ。 その理由としては、助成金をもらおうと予算が尽きた場合に事業自体が立ち行かなくなるケースが多いこと、また担当者が変わることで事業の継続性が断ち切れてしまうことなどが挙げられる。ジャパンデザイン社は、官と民の間を取り持ち、公費を持ち出さなくても民の資本や商品を活用して官や国民も納得のいく解決へと導く、仲人的な手法で事業を進めており、日本では例のない手法であることを強調された。			今回、山下太郎氏の講演会を開催することで、官民をつなぎ、地域を巻き込むビジネスを展開している山下氏の取り組み事例を参考に、「ソーシャルビジネス」の一端を知ることができたことは、参加者にとって収穫となった。 特に、「温泉総選挙」のような取り組みを実施するにあたっては、個々の宿ではなく温泉地全体を盛り上げることが重要であることや、「温泉総選挙」を行うことで、地域に共通の意識をもつてもらうことが大切であるという山下氏の知見は、温泉地という特徴をもつ東鳴子の地域おこしにとっても大いに参考になるものであった。 第二部のワークショップでは、温泉地におけるワーケーションを推進する「温泉Biz」を鳴子温泉で実施する際、地域として、訪問者にどのようなコンテンツを提供すれば良いかを参加者全員で検討した。 食やコンテンツ、鳴子ならではの様々なアイデアや意見が出され今後の地域づくりにつながる有意義なワークショップとなった。			
24	一般社団法人スキルチャ レンジ	北海道釧路市	鈴木 翔也	アイスホッケー指導者	マルチスポーツ体験講習会	令和2年10月24日(土)~25 日(日)
	事業内容			事業成果		
2日間にわたり、子どもから大人まで約100名の選手及び指導者に対してアイスホッケーの実技・ノウハウ・トレーニング方法を指導いただいた。 また、講師の海外での選手経験や日本代表への指導経験のもと、氷都・釧路としてアイスホッケーをより地域活性化へ繋げていくためには、アイスホッケー環境整備・競技人口拡大・業界の活性化が重要であり、小学校からアイスホッケーを教わり、地元のプロチームまである環境の恵まれた釧路地域は、世界レベルの選手を生み、アイスホッケー首都となるポテンシャルがあることをお話いただいた。			今回の講習会では、釧路地域での人材のみでは実施できなかった高い知識とレベルでの講習会となった。 世界トッププレイヤーからの直接指導は、釧路地域の子どもたちにとって、今後の選手人生において素晴らしい体験となった。 また、指導者にとっては、海外・日本の他地域と比べ恵まれていることを再認識させられるとともに、釧路ならではの選手の指導方法や育成計画についてもご指導いただき、氷都・釧路を盛り上げていくための方法を教わる貴重な体験となった。			
25	特定非営利活動法人街・ 建築・文化再生集団	群馬県前橋市	①脇坂 隆一 ②石川 啓貴 ③田中 康成 ④鈴木 英昭 ⑤塚原 秀之 ⑥矢島 宏雄	①国土交通省都市局都市計画 課環境計画調整官 ②国土交通省都市局公園緑 地・景観課景観・歴史文化環境 整備室課長補佐 ③文化庁文化資源活用課課長 補佐 ④鶴岡市建設部都市計画課課 下のまちづくり推進主幹 ⑤長野市教育委員会事務局文 化財課主査 ⑦元千曲市教育委員会文化財 センター所長	NPO法人街・建築・文化再生集団 2020年度研究会 はじめの一步 歴史文化がおもむきまちづくり <藩宮前橋製糸所開所150年記念研究会>	令和2年9月26日(土)~27日 (日)
	事業内容			事業成果		
26日の見学会はお招きした講師から先進事例を参考に前橋の歴史的風致に対する考え方を具体的にアドバイスしていただいた。 27日のフォーラムでの石川先生の講演は歴まち法の活用と取組を通じた地域活性化推進をテーマに具体的な活用事例から、その活用方法を示された。田中先生は文化財保護法の改正による文化財保存活用計画認定制度から、新たな文化財の活用の拡がりについて話された。手島先生は、前橋の歴史的風致、特に絹産業の歴史とはじめの一步としての歴史的風致について話された。 午後のフォーラムは各地の事例報告と基調講演を元に、これから取り組む前橋の歴史文化がかかるまちづくりについて議論した。			私たちは、各地の絹遺産を地域の歴史、伝統文化、継承すべき文化遺産として、地域活性化の切り札として活かす手だてを、地域間交流を通じて知恵を出し合い、創り上げることを目的としている。今回の研究会は、前橋市に対する歴まち法の適用と歴史的風致維持向上計画策定に向けて具体的に一歩踏み出すことを目的としている。 当日は多くの市民の参加を得て、歴まち法適用に向けて具体的な方策を学び、講師の講演とアドバイスから、前橋の歴史的風致、絹遺産等の文化財を地域づくりの核として活かす市民・行政一体となった新たな手だてが、具体的な形で見えてきた。歴史文化がかかるまちづくりへ、はじめの一歩が踏み出した研究会となった。RACの次年度に向けた活動に弾みのついたフォーラムであった。			

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
26	観光まちづくりの会	兵庫県丹波市	田口 みほ	英国IFA認定国際アロマセラピスト	健康長寿日本一をめざす「暮らしの広場づくり」	①令和2年10月17日(土) ②令和2年11月14日(土) ③令和2年12月12日(土) ④令和3年2月20日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>ハーブ大園ドイツの薬草園に習い、薬草園作りに向けて、区画整理や土づくりなどについてアドバイスをいただきました。一部の区画では、ハーブ(タンバトウキ、エキナセア、セージ、バジル、ラベンダー)の植栽を行いました。</p> <p>来年度に向けて、種まき(ジャーマンカモミール、ローマンカモミール、ゲットウ)や苗の育成を指導いただきました。薬草園づくりに際し、薬草の歴史や薬草の作用、ハーブ(バジル、エキナセア、セージ、ラベンダー)に関する講演が行われ、ハーブから得られる精油ラベンダーを使って日常のセルフケアに役立つ実習も行われました。</p>					<p>参加者は、実際に薬草園の区画作りから土づくり、ハーブの種まきや苗の植え付け、手入れ、収穫を体験して、薬草園の運営に必要な技術を習得することができました。また、地域住民によるハーブ園活動性やハーブに関する講習、実習を行うことで、地域の交流がより活性化。ハーブの知識を学び、生活に取り入れることで、地域住民の薬草に対する関心や親しみが高まり、セルフケアひいては健康に対しての意識づけや意識の向上が図られました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
27	宮崎「橋の日」実行委員会	宮崎県宮崎市	①梅津 颯一郎 ②山口 孝治	①宮崎公立大学人文学部国際文化学科准教授 ②宮崎市立江平小学校教諭	かるたづくり講習会	令和2年10月18日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>梅津先生:かるたの歴史と文化について、「ひむかると」についてかるたの歴史、文化的背景、メディア論としてのかるた・オリジナルかるたの制作プロセス</p> <p>先生より、郷土かるた「ひむかると」は、地域イメージ・地域アイデンティティを創造する「古くて新しい」メディアとして考案されたものと語られました。</p> <p>これは、当プロジェクトが目指しているテーマで、ここに響いた言葉でした。ひむかるとは46枚ずつの絵札、読み札からなり、1札に1つ以上の項目で、宮崎の魅力を語る情報(気候風土、偉人・有名人、名所旧跡、歴史、特産物など)が表現されています。内容は宮崎県全体が網羅され、読み札の文言、絵札の絵は、宮崎市を中心とした県内在住の小中学生、中学生に広く呼びかける形で公募、公募作業にあたっては、かるたのコンセプトを事前に明確にしつつ全体像を設計した上で進められ、まず「プレかるた」を作成し、それを見本として関係各方面の協力を取り付けたとのこと。</p> <p>この「プレかるた」は、インクジェットプリンターを用いて作成された簡易なものでしたが、その内容はかるたのコンセプト、対象者などを明確に表現しており、実際のかるた同様46枚の絵札読み札に、宮崎の郷土情報が読み込まれた本格的なものであったとのことでした。また、公募方針を決めるための市民アンケートを実施したとのことでした。</p> <p>これは、宮崎の偉人・有名人、気候風土、名産品、歴史・文化、名所・旧跡それぞれについて、各ジャンルのバランスをとりつつ、県内各地の情報を網羅し取り上げるための事前調査とのことでした。その調査データに基づきつつ、より子どもたちの教育に効果的な全体バランスについて、有識者の意見を取り入れることで最終的な分野バランスを決定。その後、読み札を募集し、宮崎在住の文化人、教育関係者らによる審査を経て46枚の読み札に記載する文言を決定。読み札に対応する絵札を同様の手続により選定したそうです。</p> <p>絵札の募集にあたっては、子どもたちが絵札のイメージを描きやすくなるために、読み札決定後イオンモールや県立図書館において「ひむかるとのアスタ」を開催し、46枚全ての文言と内容をわかりやすく解説したポスターを一般向けに公開、その後2007年3月、ひむかるとが完成。県内の関係各所に配布されたとのこと。2012年に「ひむかると協会」が設立され、同協会主催による事業として続けられているとのことでした。</p> <p>最後に、大切な「ひむかると」を活用して地域の魅力や理解を深めていくことだと話されました。ひむかるとは、毎年かるた大会を実施し、普及活動を推進しています。</p> <p>山口先生:ひむかるとを使った競技体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技かるたの体験(ルールや作法) ・地域づくりとしてのかるたについて <p>ひむかると協会が認定する公式ルールにしたがって、実戦しながら競技かるたを体験しました。半量程度の場所に先生が可会者になって、3人1組(審判と競技者2名)で3組に分かれておこなわれました。</p> <p>当方かるた制作について、アドバイス、QAなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの心が動くプロジェクトなのかどうかそれを大切にしなければ独自性が無くなる。 ・公募作業にあたっては、かるたのコンセプトを事前に明確にし、全体像を設計した上で進めること。 ・制作したかるたを活用して地域の魅力や理解を深めていくこと、毎年かるた大会等を実施し普及活動を推進していくことが大切である。 ・実施にあたっては、関わる人がWINWINの関係を目指すこと。 					<p>今回の講習会を受け、さまざまなプロセスを通して、同かるたが完成されたことを知り、当プロジェクトをどのように進めていけばよいのかを改めて考えることができました。</p> <p>かるた競技体験を経験したのは、各組の審判と主審による旗の上げ下げ音やアクションで、全体進行をリズムカルになりました。これにより試合中は各組の戦いの会場をつつむ一つのまとまりとなりました。今でも、旗が上下する「バサッ」という音が会場に響き渡り、心地よいイメージが残っています。また審判役、競技者として一通り体験するなかで、こんなに楽しい遊びがあるのかという感覚を持ちました。</p> <p>これはスマホゲームに熱中する子どもがいるなかで、古くて新しい遊びであると感じました。その他、「役札」制度もあり、ゲームとしての面白さを加味するもので、大人も十分に遊べると思います。</p> <p>私たちも、かるた大会を開催する予定であるので、大いに参考となりました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
28	特定非営利活動法人草木谷を守る会	秋田県湯上市	①小林 金一 ②新田 真弓 ③佐藤 賢一 ④天野 莊平	①八郎湖増殖漁業協同組合組合長 ②秋田県立大学大学院生 ③佐藤食品株式会社代表取締役社長 ④湯上市文化財保護審議会副会長	まるっと体感！八郎湖	令和2年10月24日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>近くて遠い湖となつてしまった「八郎湖」。八郎湖流域住民へ湖に対する関心や愛着を醸成することを目的に、環境(八郎湖の食物連鎖)、漁業(漁法や漁獲高)、産業(佃煮作りや佃煮業者の取組み)、民俗(昔の湖で使用されていた漁撈用具の解説)など様々な視点から、専門の方から講義をいただき、八郎湖流域住民へ八郎湖の現状や問題点、可能性を知ってもらえた。</p>					<p>普段聞くことのできない有意義な講義や初めて聞くような事柄に耳を傾けることで、新たな知識や発見を得るとともに、地域資源に好奇心を持っていただけたと考えている。また、この事業を通じ、自分の住んでいる地域に誇りを持ち、「八郎湖」への理解と愛着心を醸成することになるような活動を続けていきたい。</p> <p>■参加者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで感じることができなかった八郎湖を知ることができた。 ・八郎湖へ興味を持つことができ良い機会となった。 ・いろいろな八郎湖のことを知れて楽しかった。 	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
29	おゆみの道・緑とせせらぎの会	千葉県千葉市	安西 徹郎	元千葉県農林総合研究センター次長	タネから育てたヤマユリを育てる 斜面林の土壌の物理診断と適地の選定及び改良指導	令和2年10月24日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>本講習の目的はヤマユリの移植適地を探すための科学的手法を学ぶことである。予め公園内の3箇所に準備した70×40×(深さ)30cmの穴をさらに深く掘り下げるなどしたのち、その断面を観察し、講師により、視覚的・触覚的手法による土壌診断法として検査器具を用いた物理性診断手法さらに簡易検査キットによる化学分析手法の指導を受けた。そして実際に体験してそのスキルを身につけた。さらに検査結果の数値の判断基準について指導を受けた。講師の判断は、検査場所3箇所のうち2箇所の土壌は良好であるが日照の問題ありとされ、1箇所はヤマユリ育成土壌としては不適であり、実施するためには大規模な土壌改良が必要との指導を受けた。</p>					<p>タネから育てたヤマユリを山に返し、他の希少植物も含め次世代に亘って野生の状態でも育てていくためには場所の選定が極めて重要である。この成否がパークマネージメントの一環としての本事業の成否に直結している。泉谷公園は公園造成時の掘削や土盛りなどで地形・地質が変わった場所もあり、場合によっては地下水脈の変化も想定され、現在生き残っている場所が適地とは限らない。このため適地を科学的に見つけ出す手法の習得が本会にとって喫緊の課題であった。</p> <p>今回、この講習を実施したことで、土壌の物理性および化学分析の手法を学ぶことができ、参加者のスキルの底上げが図れた。</p> <p>このスキルを活用して、科学的な見地からヤマユリの効果的な育成手法を検討し、成果を残すことで、この地域活動を継続することが可能となり、地域に根付いた団体として、参加者の増加や活動の活性化が望める。</p> <p>また、ヤマユリを始めとした植物が花を咲かせ、公園の景観を保つことで、地域の安らぎの場を提供することに繋がる。</p>	

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日	
30	長野市大岡地区住民自治協議会	長野県長野市	①川北 秀人 ②阿部 今日子	①IHIOE(人と組織と地球のための国際研究所)代表 ②長野市市民協働サポートセンター長	小規模多機能自治の考え方を学ぶための研修会	令和2年10月31日(土)	
	事業内容				事業成果		
地域の状況は変化していること、それに対して地域組織の見直しや行事のあり方等地域に見合った地域づくりが大事。それには住民組織(住民自治協議会)のミッションである「命と暮らしを守る」という視点から考える。単に人集めのイベントを開催することが住民組織の役割ではない。地域全体では人口減だが85歳以上の人口は逆に増えている。支える人が減少し、支えるべき人が増えていく人口構造のなかで地域をどうつくるのか、5年先10年先を見据えた議論が必要。そのためにも、中学生以上の全住民調査を実施するなどして地域の状況を客観的に捉えておくことは必須。地域データをしっかり見据え、それを基にした住民総動による事業創出を図りたい。					地域の状況(姿)を再確認するとともに、地域の意識や仕組みは昭和の時代からさほど変わっていないという現状認識を新たに。縮んでいく地域でどんな未来を描くのか、そのためにすることは何か、閉塞感が募るなかで地域として踏み出す一歩を共有できた。まずは全住民調査を実施したい。これは行政任せではなく、住民主体の全地域的事業として計画する。調査自体は地域を知り、課題発見のための手段に過ぎないかもしれないが、そのプロセスは地域の意識を変え、新たなつながりをつくることも期待できる。全戸ではなく個人を対象とした地域調査はこれまでに例がない。この実践自体が地域を何とかしたいという地域住民への意思表示だと考え、地域の自治組織活動の見直しにもつながってほしい。		
31	原村ねこの手サービス運営委員会	長野県原村	①ジョー・ブライト ②ナナ・ブライト	①NPO法人予防医学療法研究会理事長 ②NPO法人予防医学療法研究会副理事	呼吸とストレッチで！自分でできる！ストレス・うつ改善法 ～コロナ禍の今、自律神経を整えて免疫力アップ！コロナ太り解消！～	令和2年10月30日(金)	
	事業内容				事業成果		
講義「自分の人生を一言で表すと？」とアメリカのアンケート結果では「ストレス」と答えた方が6割という結果がある。そのくらい、現代社会はストレスを感じる人が多く、セルフケアが必要となっている。 つながりの神経システムを人体図で示したり、赤ちゃんとお母さんの表情を含めた動画を再生し、例に挙げながら、コミュニケーションの脳の機能は進化の過程で最近獲得されてきたもので、うまくいかないと闘争心や姿勢が崩れるなど原始的な反応が出てくること示された。 人は過去や未来のことを考えている時間が8割で不安や心配が出てくる。「今、ここ」に戻ることが重要。 リセットを実践した今までの事例の実践前・実践後の人の表情を見ると笑顔が増えた。ボランティアの方が訪問する際、笑顔で来てくれた方がよいのでは？と投げかけ、実践への動機づけがなされた。 実践/呼吸とストレッチで3ステップでできるリセットを参加者が自身の椅子の周りで真似をしながら教わっていった。					アンケート結果から、 ・つながりの神経システムは初めて知っておどろいた ・リセットの3ステップを是非忘れないように今夜からでもやりたい ・「姿勢」と「今ここ」が大切と改めて感じた ・もっとたくさんの方々にも知ってもらえたらよい ・今一番聞きたい話で実践もあり、良かった など声が聞かれました。 コロナ禍でストレスを感じている協力会員本人のみならず、そのご家族や訪問先の利用会員の方にも良い影響を波及していけると考えております。		
32	(特)いちばら市民活動協議会	千葉県市原市	小倉 淳	特定非営利活動法人光と風と夢代表	児童虐待から「いのちを守る」地域づくり	令和2年11月21日(土)	
	事業内容				事業成果		
児童虐待の定義や見分け方、市原市の児童虐待の実態から丁寧な解説からはじまり、「虐待のない、子育てのしやすい地域づくり」のために、地域の協力や行政との連携が重要であること、児童虐待から子どもの「いのちを守る」ために市民ができること等について講演された。また子育て支援団体と連携し、実践体験から感じた子育て中の母親の状況を知ることができた。					市内で乳児衰弱死事件が起こったこともあり、民生委員、子ども食堂など子育て支援団体の関係者などが多く集まった。市内の児童虐待の現状や子育て中の親の抱える問題などを理解し、子育て中の親を孤立させないためにも、普段から誰かにつながるコミュニティを作ることが重要であるということが共有できた。児童相談所や警察だけでなく、市民一人一人が、市原市を子育てのしやすい地域にするために何ができるか考え、動き出すきっかけとなった。		
33	星生地区まちづくり協議会	三重県亀山市	①辻 正行 ②岡田 真知子 ③福原 佳津子 ④岡田 安彦	①「そば塾すまか」会員 事務局長 ②「そば塾すまか」会員 ③「そば塾すまか」会員 ④「そば塾すまか」会員	蕎麦作りを通じた地域づくりについて	①令和2年11月6日(金) ②令和2年11月27日(金)	
	事業内容				事業成果		
【事業内容】 (1)講演「蕎麦作りを通じた地域づくり」 (2)蕎麦打ちの模範と実技指導 ※第1回、第2回ともに同じ内容です。(2)蕎麦打ちの模範と実技指導では、第1回は市販のそば粉、第2回は星生地区で栽培したそば粉を、それぞれ使用しました。 講演では、蕎麦のルーツの特性、蕎麦が日本の文化として発展してきた経緯などをお話しいただきました。講演を通じて、蕎麦に関する知識を高めることができました。 また、蕎麦打ちの模範と実技指導では、蕎麦打ちの技術を専門家から学ぶことで、より高い技術を習得することができました。					星生地区では、蕎麦栽培に取り組み始めてから、遊休農地の所有者から土地の提供の申し入れが多く、令和2年は現在の面積の5割増しになる予定であり、蕎麦栽培に取り組み意義が住民に理解されてきていると感じています。 また、高齢者に蕎麦栽培に取り組んでいただいた結果、高齢者にとって張り合いが生まれ、外出機会の増加につながっていると思います。 今回の講演会等により、蕎麦の栽培技術や蕎麦打ちの技術、蕎麦の歴史などの背景を学んだことで、蕎麦を生かした地域活性化の取組がさらに発展すると考えています。 今回得た知識や技術を生かし、年末には「蕎麦祭り」を企画しており、地元の蕎麦を高齢者に提供する予定です。		
34	特定非営利活動法人いちかわライブネットワーククラブ	千葉県市川市	①松島 大 ②木村 則彦 ③大倉 晴子 ④小林 園子	①千葉工業大学教授 ②技術士(都市及び地方計画) ③レンコンの家代表 ④企業組合WE NEED代表	TMOシンポジウム 「生活者目線で環境を考える～捨てるから“渡す”へ～」	令和2年11月7日(土)	
	事業内容				事業成果		
「生活者目線で環境を考える～捨てるから“渡す”へ～」をテーマとして、千葉工大松島教授からは、地球環境で気温が1.5度上昇することが生活に与える影響を、また木村氏からは具体的に市川市をモデルに都市と環境の機能をご教授いただいた。またレンコンの家の大倉さんからはパソコンのサイクルの実演を、小林さんからはごみ屋敷をめぐる高齢者対応をご紹介いただき、我が地域活性化・地域づくりを考えるヒントをいただいた。					多彩な講師陣を交えて、市民目線での円卓会議を行ったが、左記以外に「環境」をテーマにダンススクールによるリサイクルダンスの創出、市内廃業者の参加、市川市環境部からのプレゼン、演劇活動の紹介、環境出版研究会の紹介などがあつた。本イベントをきっかけに、児童生徒による環境プログラミングプロジェクトへの企画も生まれ、現在検討を進めている。このように本イベントを通じて関係者が新しいつながりを持ったことで、今後の新しい地域づくりの契機となったことが成果であると考えている。		

令和2年度地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
35	一般社団法人洗楓屋	東京都港区	①山川 建夫 ②伊藤 順久 ③土屋 隆幸 ④山岸 修 ⑤広川 美愛 ⑥青木 裕子	①フリーアナウンサー ②イベントプロデューサー、イベントマーケティング運営組織委員会 CEO ③エルンおもちゃ博物館営業企画課長、軽井沢風越の森合同会社代表 ④ふるさと新聞ライブラリー館長 ⑤軽井沢新聞社代表、株式会社アドエイド代表取締役 ⑥軽井沢朗読館館長	公開勉強会/軽井沢を地域とした地域づくり・文化ふるさと快活事業	令和2年11月21日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>本事業は、2部構成で行った。</p> <p>第1部は、軽井沢書店のカフェエリアが会場。定刻13:30に開始、佐藤建吉が挨拶し、山川建夫氏が寺田寅彦著『天災と国防』を朗読。座席の10名のほか店内に放送。朗読後、山川氏が環境問題へ関わる経緯・実践・台風被災経験等につき講演。定刻に終了。</p> <p>第2部は、中軽井沢図書館多目的室を会場とし定刻15:30に開会。佐藤建吉が活動報告と目的につき解説後、①観光&イベントにつき伊藤則久氏と上屋隆幸氏が、②コミュニティ&メディアにつき山岸修氏と広川美愛氏が、③文芸&アートにつき山川建夫氏と青木裕子氏が意見交換。軽井沢と他地域の町などとの違いにつき助言を得て、意見交換を行った。参加者13名。</p>						
<p>(1)洗楓屋の東京と地方を繋ぐ活動において、対象地を軽井沢町で行うための地元相互理解が深まった。</p> <p>(2)当日には、FM軽井沢でスタジオから放送し、洗楓屋の活動について地元の方々に伝えることが出来た。</p> <p>(3)地元で観光&イベント、コミュニティ&メディア、文芸&アートの3分野で、それぞれ指導的な役割を行っている土屋氏、広川氏、青木氏から地元の歴史的背景、現状、自身の取組み等につき聞くことが出来た。</p> <p>(4)また、東京・千葉から招聘した伊藤氏、山岸氏、山川氏も自身のこれまでの経験やそれぞれのテーマについての解説や見解を学ぶことが出来た。</p> <p>(5)結果、6氏の意見交換から、洗楓屋が軽井沢で取組む際に、指導と協力を得られる人脈をつくらることが出来た。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
36	吉岡宿にしびりかの映画祭実行委員会	宮城県大和町	①今村 彩子 ②林 政世 ③土屋 トカチ	①映画監督、Studio AYA代表 ②豊学校勤務 ③映画監督、合同会社映像グループローボジション所属	吉岡宿にしびりかの映画祭	令和2年12月26日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>地域の差別解消共生の基本は「人には違いがある」ということを「知っていくこと」だと考え、その手段として「映画祭」を開催した。2作品を上映。</p> <p>1作品目は「友達やめた」。豊唾の監督と発達障害の友人のドキュメンタリー映画。豊唾者の人気が高く観客としても多参加した。上映後の出演者である二人のトークも、生で聞くことで障害を通してのコミュニケーション問題について映画の内容と併せて理解を深められたと好評だった。</p> <p>2作品目は「アリ地獄天国」。正にコロナ禍の今に見て欲しい労働環境に関するドキュメンタリー映画。監督のトークは労使間に関わる困難な課題と克服に関するもので参加者にコロナ禍における勇気を与えるものとなった。</p>						
<p>2作品とも事前予約で満席。キャンセルもあり合計のべ119名の参加で映画祭初の満席の好評。コロナ禍の今だから考えたいという熱い思いが溢れるトークが展開された。</p> <p>1作品目については、人の多様性について、その意味、その必要性を認識し、参加者にとって身の回りの障害を持つ人等と共生できる地域づくりに資することとなった。</p> <p>2作品目については、想像を絶する現実の雇用問題について、コロナ禍でその環境はさらに厳しいものとなり、参加者の立場はそれぞれ異なるものの、他人事ではないと捉えられ、これも参加者が、この時代、地域における共生社会づくりを深く考えていくことに資することになった。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
37	まちなかミュージアムワークショップ	青森県八戸市	①北原 啓司 ②大木 和彦	①弘前大学大学院教授 ②株式会社ダグソチマ代表取締役	はっち10周年を振り返る市民シンポジウム これまでとこれから～持続可能なまちづくりを考える～	令和3年2月11日(木・祝)
	事業内容			事業成果		
<p>最初に、プレフォーラムとして、会場隣のギャラリースペースで10周年を振り返る写真展示を行い解説しながら事業を振り返った(55分)。その後、隣接のメイン会場へ移動。開館前の参加の取組みを中心に、地元教員・商業者によるショートプレゼンを実施(45分)。続いて、講師お二人からの講演(60分)。最後にパネルディスカッションで、これからのまちづくりや、はっちの在り方について当初予定の時間を越えて討議した(110分)。</p> <p>弘前大学北原教授からは、「拠点の連鎖とまちなか編集ー八戸中心市街地の覚悟ー」と題し、はっち開館前から15年間の八戸市中心市街地でのまちづくりを総括しつつ、その長所や特徴と今後に必要なポイントなどを講演いただき、(株)ダグソチマの大木代表からは、福島県須賀川市での官民連携による中心市街地での事業をご紹介いただき、民間が事業として行政を先導する取組みの進め方について、八戸へのアドバイスも含めてお話いただいた。</p>						
<p>八戸ポータルミュージアムはっちの10周年を開館前より関わってきた市民側で祝しつつ、これまでの活動を振り返り、これからを考えようという企画であったが、コロナ禍の中で様々な制約を受けたものの、立場や世代の異なる多様な方々の参加を得て、成功裡に終わることが出来た。とりわけ、通常開催が出来ないことを見据えたオンライン配信を実施したことにより、秋田、函館、仙台など各地からの視聴者や、市民活動に携わった後に進学や転勤で上京した方々の視聴参加など、新たな参加を得ることが出来た。講師の北原氏、大木氏からは他都市の事例を多数伺いつつ、市長、市議会議員の方々も多数参加いただき、市と民間のあるべき役割分担や、今後の事業展開について、考える機会とすることが出来た。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
38	特定非営利活動法人放課後こどもクラブBremen	宮城県石巻市	田口 久美子	和洋女子大学教授	地域の子育て学習会「withコロナと放課後児童クラブ」	令和3年2月7日(日)
	事業内容			事業成果		
<p>コロナ禍最中の指導員のアンケートをもとにお話を組み立てられた。震災以後2015年、2017年、2020年と3回にわたって行ったアンケート結果から震災とコロナ禍の相違点、類似点をまとめ、言えることは丹念にまとめていただきました。最終的には、行政・保護者・指導者・学校が子どもを中心に信頼しあう力を合わせることで乗り越えようとしてと確認し合いました。</p>						
<p>保護者・現役の支援員・一般市民・市議会議員などいろいろな立場の方が一同に会し、共にコロナ禍の中で放課後児童クラブはどうあればよいかを確認し合うことができた。これから委託化に向けて力を合わせて発展し合うことを考えていきたい。</p>						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テ ー マ	実 施 日
39	地域づくり塾NASUKAH	石川県白山市	佐々木 雅幸	学校法人稲置学園理事、大阪市立大学名誉教授	特別講演会「創造都市・創造農村と白山市への期待」	令和3年1月30日(土)
	事業内容			事業成果		
<p>白山市や野々市市、能美市などは住みよさランキングで全国の上位にランクインされていますが、実際の住民はその良さについて実感していないことが多いです。特に、白山市は山から海までの広いエリア範囲を包括しており、地域によって豊かさの感じ方が異なると思われれます。その中で、その住みよさの源は何かを発見することを目的とした内容の講演でした。</p>						
<p>創造都市とは、市民一人一人が創造的に働き、暮らし、活動する都市であるということ。欧州市や金沢市の取組み事例をご紹介いただいで知ることができました。また、創造都市という考え方は農村にも適用できるのではないかとこのお話の中では、日本各地の様々な事例をご紹介いただき、創造の場をつくる3つのポイントとして、創造性を結びつけるネットワーク、草の根からの住民参加、素敵な偶然の出会いが欠かせないということを知りました。</p> <p>今回は創造農村としての白山周辺市町の魅力を紐解いていただき、市民としての豊かさの源を改めて自覚できるようになりました。</p>						